



笑顔つながらる楽しい活動へ、 一歩前進

会長 須田 貴子

日頃より、子ども会活動にご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。さて、今年の干支は卯(う)年。「卯」は「春の訪れ」「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるそうです。うさぎが「飛び跳ねる」という連想から「景気が上向きになる、回復する」という意味があるとも言われています。ようやく厳しかった冬が終わり、それと同時にマスク生活も緩和され、徐々にではありますがコロナ前の生活に戻りつつあります。年度も変わり、活動本番を迎える季節となり、様々なところから事業再開やイベントへの協力依頼が増えてきました。今まで感染症の影響により子ども会の異年齢交流の場や体験活動の大切さを感じる側としても感染対策や交流内容の工夫に随分苦慮された方も多かったのではないのでしょうか。また、コロナ禍での期間が長かっただけに、一歩踏み出すことに躊躇することも多く、いつ、どのように戻そうか。今年は何が実行できるかなど、やっぱり悩んでしまいます。うさぎのようにとはいきませんが、「子どもたちが参加して良かった。」と思える活動を今年は一歩前進し、多様な団体と連携したいと思っています。

そんな卯年開催



関プロ JL スタッフ会議

に相応しく、今年は十年に一度の関東甲信越静地区ジュニア・リーダー研修大会がこの新潟県に戻ってきます。スタッフに応募してくれた二十名は、県内各市子ども会でも会費でジュニア・リーダーの皆さんです。素案だけリーダーで考えましたが、後の細かいところはこれから若いスタッフの皆さんの意見を取り入れながら夏の本番に向け、調整し、リハーサルを六月に行う予定となっています。最初の顔合わせの際に、開口一番「誰が見ても内容が解る要項にして下さい。大人の人が考えたものを実行に移して出来なかったときの責任は誰が取るんですか?」と、勇気を振り絞って発言してくれました。リーダーに、十年前の出来事がついに昨日のように思い出され、目から鱗がとれた感じがしました。新潟県で実施する研修大会を真剣に考え実行に移せるようにと願う発言に、上から目線で話をしてしまったのかと反省させられた一場面でもありました。大人が黒子となって若いユースリーダーを支え、たとえ失敗しても、その分、次に生かしてもらいたい。責任なんて言葉は必要ありません。本県を含む十県の中高校生が一堂に集い、妙高の自然を感じながら学び合う楽しい研修大会になってほしいと心から願いつつ、昨年の栃木大会で活動を共にした各県の皆さんと笑顔で再会したいと思っています。

また、昨年も一昨年同様、感染症拡大への懸念から加入を見送った単位子ども会も決して少なくありません。

せっかく計画しても、「実施して感染したら誰が責任取るのか。」などと保護者から言われた役員もいたそうです。コロナ禍での様々な課題や困難を抱える保護者も増えたともお聞きしています。子どもたちの未来を見つめながら、子どもに関わる地域の一歩身近な大人として、保護者や子どもに寄り添い、活動出来ることを模索しながら、今年度も安全に配慮した体験活動等を実施したいと思っております。

結びに、これから夏の活動を計画されている子ども会もあるかと思えます。是非その際には、最新の安全対策を活動計画の中に取り入れ、子どもたちが安心して参加できる活動となりませう、ご配慮のほど宜しくお願い申し上げます。

今後の予定

- 関プロ総会(埼玉県ウエスタ川越) 六月十一日(日) ～ 十二日(月)
- 関プロJLスタッフ会議(リハール) (国立妙高青少年自然の家) 六月十七日(土) ～ 十八日(日)
- 第一回関プロ推進研究会(全子連ビル) 七月一日(土) ～ 二日(日)
- 第一回JL中級研修会(国立妙高青少年自然の家) 七月一日(土) ～ 二日(日)
- 関プロJL研修会新潟大会(国立妙高青少年自然の家) 八月四日(金) ～ 六日(日)



『はつらつ体験塾』は「気持ち」を育てます

新潟県少年自然の家 指導課長 村上 敏樹

「はつらつ体験塾」は、学校や教室に行きづらいつ感じている児童生徒を対象とした新潟県少年自然の家の主催事業です。居場所を探しに…

「子どもがなかなか学校に馴染まず、居場所を探していました。子どもにはいろいろな体験をさせたいと思います。」この言葉は、『はつらつ体験塾』に参加した子供の保護者が「ほそつと」所員に話してくれたものです。このような気持ちを『はつらつ体験塾』に参加する子どもは保護者は多かれ少なかれ持っている」と所員は感じています。

「みんな、できるよ。勉強も友達も。大丈夫だから。私もできたから。」これは、学生ボランティアのAさんが子どもたちに向けた言葉です。Aさんは、自分自身が小学生の頃、学校に行けなく、悩んでいた時、『はつらつ体験塾』に参加して、成長できたことを子どもたちに、少し照れながらも真剣なまなざしで伝えてくれたのです。「この言葉を聞いて、それまでうつむいていた子どもが顔を上げ、ボランティアの学生Aさんを見つめていました。会場にいた、保護者、所員は涙を堪えることができませんでした。」

「やる気」「元氣」「勇氣」所員は、保護者や子どもへの期待に応えようと、子供たちの興味を引く体験活動や様々なイベントを考えます。

子どもたちは「はつらつ体験塾」で出会った友達や学生ボランティアと一緒に協力し、助け合って活動します。参加した子どもたちは、集まった仲間や学生ボランティアと励まし合いながら、一つ一つ体験活動のプログラムをクリアしていきます。この過程で協力する大切さ、楽しさを味わうとともに、仲間を気遣ったり、ピンチの場面があっても力を合わせて乗り越える体験を重ねていきます。そして、達成感・成就感を得ながら、少しずつ「元氣」や「勇氣」が芽生えていきます。そして、いつの間にか、今までの自分とは少し違う自分を実感するようになります。

参加者の多くは、担任の先生や、適応指導教室の先生から等、心を許せる身近な方からのアプローチがきっかけとなっています。どうぞ、日頃、子どもたちに心を寄せられている皆様から一層のご理解をいただければ幸いです。

令和5年度 県子連役員所属一覧表

顧問：武士俣昭司 代表理事：須田 貴子

Table with columns for Name, Position, and Affiliation. It lists members for various departments like 監事, 専門委員, 編集委員, リーダースクラブ, and 事務局 across different regions (上越, 中越, 下越, 佐渡).

◎は部長

令和五年度第四十八回県子連総会について

一 開会式・表彰式について
 令和五年度の県子連総会は、五月二十一日（第三日曜日）に上越市民プラザで行われました。新型コロナウイルス第五類に変更されコロナ前の形に戻って実施することができました。



来賓として
 は、新潟県教育庁生涯学習推進課長 小川智子様、上越市教育委員会教育部長 中川均様、国立妙高青少年自然の家総務係長 馬場光雄様、県教育庁上越教育事務所社会教育課長 二瓶昭夫様からご出席いただきました。開会に先立ち、昨年度子ども会活動に係りご逝去された方に「黙とう」が捧げられました。

開会のあいさつで、須田会長からは、子ども会の会員が減少していること、全子連では政策委員会や議員連盟等をおして、会員の増加に取り組んでいること、各県レベルの推進委員会でも取り組みを行うこと等のお話がありました。

県子連表彰には、個人の部で加藤愛実様（長岡市）、団体の部で八幡子ども会様（長岡市）が表彰されました。

来賓あいさつで、県教育庁生涯学習推進課長様と上越市教育委員会教育長様から御祝辞をいただきました。

受賞者を代表して、加藤愛実様から謝辞が述べられました。

二 総会について
 議長には、理事の山本茂氏が選出されました。事務局が定数数の確認を行い議事に入りました。

議事は、第一号議案「令和四年度の会務報告並びに事業報告について」、第二号議案「令和四年度会計決算報告について」、第三号議案「令和五年度県子連理事等の承認について」、第四号議案「令和五年度事業計画（案）について」、第五号議案「令和五年度収支予算（案）について」が審議され、全会一致で承認されました。

三 会員研修について
 今年初めて総会の後で会員研修を行いました。

講師 上越教育大学教授
 テーマ 子ども会活動において子どもとの関わりで大切なこと
 ～障害のある子どもとの関わりから～

先生の講義が約一時間で、その後は会員によるグループワークで情報を共有し合いました。

子ども会がなぜ大切なのか、なぜ必要なのかについて認識を共有することができました。





謝 辞

長岡市子ども会連絡協議会 加藤 愛実

この度は県子連表彰を頂き、受賞者を代表しまして深く感謝申し上げます。また、表彰を頂くにあたり、長岡市子連の皆様にも深く感謝申し上げます。

私は小学生の時に参加した市子連の事業でのオレンジTシャツを着た愉快な集団の記憶がずっと心に残っていて、中学生になり、それらしい電話番号に「ジュニアリーダーズクラブに入りたいです！」と電話をかけたのが市子連との関わりのおかげでした。

それから、いつかの記憶の集団と同じオレンジTシャツを着て活動してきた日々はどれもいい経験の連続でした。

どうすれば時間通りに子どもたちを連れていけるかと自分のことで精一杯だった私はいつしか、どうすれば子どもたちにもいい思い出として持って帰ってもらえるだろうかと子ども目線で物事を考えるようになりました。

また人付き合いが苦手だった私に市子連がきっかけで同年代の友

達ができ、周りの大人からたくさん温かさももらい、時には夜遅くまで話し合い、時には愛あるムチを頂戴し、仲間を背中を押してもらいながら今日ここまで歩いてくることができました。

早いもので市子連での活動も八年目に入りました。ジュニアリーダーではなくってしまいました。が、変わらず子どもたちとジュニアの近くで、一緒になって活動に励んでいけたらと思います。



市町村子ども会の活動紹介



地域連携で絆を深める活動に

比角地区子ども育成会

三井田 孝

私たちの団体は平成十五年に子ども体験活動（文化・野外・スポーツ）を地域で支えることを目的に町内二十六の子ども会、社会体育団体から加盟いただいて設立し、今年で二十年になりました。設立当初から少子化の影響で単位子ども会が活動出来ないことも視野に入れ、子ども会単位を丸ごと受け入れる活動内容を企画したり、スポーツ団体からはコミセン祭で行う遊びの広場や交通安全教室への協力など、常に多くの方々と連携した活動を実施しています。

春は毎年入学式前の土曜日に新一年生の登校練習を兼ねた交通安全教室です。当日の朝、新一年生は保護者と共に地区子ども会の役員や登校班の班長さんと一緒に学校を目指して歩きます。道中、安全な歩き方や正しい横断の仕方などを高学年の班

長さんから学びます。学校に着いてからは校長先生のお話や地域で安全に見守って下さる交通安全



協会の方々の紹介、スポーツ団体からの活動紹介があります。コロナ前は警察署の方からご協力いただき、横断歩道を渡る練習もありましたが、最近は感染対策として四班に別

れて実施しているため、道路の安全な渡り方というチラシと交通安全クイズのプリントを作成し、保護者の皆さんにお渡ししています。今年は警察署からヘルメット着用についてのチラシもいただき、皆さんに手渡しました。校長先生から「車と接触して痛くなくても、『大丈夫です。』ではなく、『お家の人に連絡して下さい。』と言いましょ。お家の電話番号言えるかな？」と問いかけがありました。交通安全協会女性部の代表の方からは「道路を歩いていて気になることがあったら、町内の役員に何でも相談して下さい。」とご

挨拶がありました。夏は街頭民謡流しや野外キャンプの他に、こども交流会を実施しています。高学年は地域探検と称した地域安全マップ作り、低学年の親子物作り教室、学年対抗で行うスイカ割りやラジオ体操、地域の福祉団体役員が作る地域ふれあい食堂

や、おさがり会（制服や体操着等のリユース事業）など、コミュニティセンター関係者と共に開催しています。



秋はコミュニティセンター保健体育部と連携した秋のふれあいフェスタへの協力やコミセン祭での遊びの広場を担当しています。その他、小中学校の先生方との懇談会も実施し、昨年は村上市から講師をお迎えし、「子どもの成長過程の中で学校・家庭・地域が果たすべき役割」について関係者の皆さんと共通理解を深めました。参加された方からは「グループワークを通し、顔と顔を

合わせ、話をすること大切だと再確認した。」「乳幼児期、学齢期、青年期、子育て期のそれぞれで関わって、子育てに特化する必要はなく、イベントでも何でも、つながりを継続できればいいと感じた。」という意見が出ました。



年明け後の三月には春のふれあいフェスタを教育振興部の役員と共に実施し、育成会役員は昔あそび交流体験会を担当しました。

学校から協力要請がある学校支援活動（地域探検やミシン補助、朝の見守り、プール監視等）もコーディネートから依頼で連絡網が回り、出られる方が学校に Outreach します。

このように一年を通じ、たくさんの方と一緒に活動しながら、地域の方と絆を深めています。これからも安全で楽しい活動を地域の様々な団体と連携しながら活動していきたいと思っております。

上越地区

楽しかったお祭り

上越市仲町六丁目子ども会
取材 竹内 恵市

五月十六日、日枝神社の大祭で子ども神輿が町内をねり歩きしました。この祭りには高田の市街地十九町内が参加し、子ども神輿がある町内では楽しみな行事です。このたび、仲町六丁目子ども会の様子を見せていただきました。感染症予防のために、四年ぶりの巡行は子どもたちが楽しみにしていたようです。夕方、町内の子どもたちが集まり、育成会のご協力で神輿が町内に繰り出しました。古くから子ども会活動が盛んであり、立派な神輿と祝儀をいただいたお宅へは獅子が玄関先に行き、

その家庭の無病息災のお払いをして廻っていました。各町内会の子どもの数は減少していましたが「わっしょい」と言う元気なよい掛け声で町内の皆さんが外に出て子どもたちを迎えておられました。子どもたちの楽し



みは巡行後にいただく「おだちん」です。普通は袋に入った同じものを貰うのですが、公園ではお菓子と折り紙が混ざったものを撒き、それを自分の袋に入れる方法と折り紙にも賞品名が書いてあるなど、育成会の工夫が伺えます。千本引きや双六の数字の合計でお菓子が貰える楽しいゲームがたくさん用意してあり、楽しそうでした。子どもたちは「暑い中を神輿を引っぱって疲れたけれど、神社へ行き、神楽も見たいので来年も参加したい」と答えてくれました。地域の皆さんが子どもたちを温かく見守ってくださっておられる姿が感じ取られる素晴らしいお祭りでした。

下越地区

楽しかったサマーキャンプ

阿賀野市子ども会
五年 金井こはる

私は、小学校五年生の夏休みに一泊二日で阿賀野市にある五頭自然の家でキャンプ体験をしました。このキャンプは私にとってはじめてのキャンプで、とても楽しかったです。

キャンプ場は、たくさんの木や川があつて、風も気持ち良く自然に囲まれた場所でした。その他にもテントを張る場所やキャンプファイヤーをする場所、外でご飯を作る場所がありました。

一日目のお昼ご飯は、薪で火をおこして、みんなでご飯を作っておきました。友達のみなどと一緒に作って食べるご飯はとってもおいしかったです。

夜には、キャンプファイヤーをしました。みんなでいろいろなレクゲームをやったり、最後に



は花火もやりました。また、星空がとってもきれいで、普段は見る事ができないたくさん星を見ることができました。次の日には、川で沢登りをしました。川の中を歩いたり、ロープを使って川を渡ったりしました。転びそうになったときもありましたが、とても楽しかったです。私は、自然の中で過ごすことがこんなにも楽しいことだと知りました。このキャンプ体験を通じて自然を大切にしたいと思えました。また友達みんなで行くのもとてもいい経験で、思い出に残るキャンプがあつたら参加したいと思えます。

佐渡地区

子ども会の思いがよければ

佐渡市貝塚子ども会

五年 井出 千森

私たちの子ども会では、ここ数年コロナウイルスの影響でイベントをできませんでしたが、それまでいつも楽しいイベントばかりでした。冬のお楽しみ会ではプレゼント交換や割り箸キャッチ、背中に何を書いたか当てるクイズなど楽しいイベントがあつて、夏のお楽しみ会は西三川ゴールドパークで砂金取りをして、そのあと公民館でカレーを作ったりしました。そして、夏休みには毎朝六時半からのラジオ体操をしています。毎日早起きをするのは大変だったけど地域の人と交流できたり、前よりパワーがわいてきたり、いいことがたくさんありました。子ども会で空いた時間があると、みんなでかくれんぼをしました。他にも鼓童のしんちゃん先生による太鼓教室など、いろいろな楽しいイベントがありました。去年は世界遺産登録を目指す佐渡金山で新しくできたアイランドミラージュを体験する予定でしたが、それも残念ながらコロナウイルスのため、中止となってしまいました。

今年の三月からマスク着用が個



人の判断になったりと、コロナウイルスが徐々ににおさまってきているので、うれしいことに子ども会も三年ぶりに開催できそうです。私は去年中止になってしまつても残念だった佐渡金山のアイランドミラージュを体験したいです。そして久しぶりにみんなでかくれんぼをしたいです。今の四年生より下は小学校に入学してから子ども会はやった事がないので、特に楽しんでほしいです。最近子ども会の人数がどんどんへつてしまつていますが、前のように上の学年として下の子たちを楽しませるように頑張りたいです。そして、全力で楽しんでください。みんなが前よりもっと仲良くなれたらいいと思います。

中越地区

トライウォークにいったよ

柏崎市新道小学校

一年 大ず しょうま

きよねんもトライウォークをやつて、またさんかしたいとおもいました。ことしは、おともだちといっしょに、ごみをひろいながらあるきました。ごみはいっぱいおちていました。すてらいいけなとおもいました。

みたこともない大きなおてらにいてよかったです。かねをならしたり、おてらのまわりのちようこくをみたりできました。こんどまたいつてみたいです。

チェックポイントのクイズがむずかしいところもあったけど、さいごまであるけてよかったです。つかれたけど、おともだちといっ



しょにあるけて、たのしかったのでまたらいねんもさんかしたいです。



編集後記

県子連総会は、コロナ前に近い状況で、平常通り開催できました。午後からは、初めて会員研修を実施しました。
今年度は、関フロJし新潟大会が行われます。JLの皆さんの参加をお待ちしております。
原稿を執筆していただきました皆様様に御礼申し上げます。
(文責：板垣)

【編集発行】

一般社団法人
新潟県子ども会育成連合会
〒九五一-八一三一
新潟市中央区白山浦一三〇〇
電話 〇二五-二三〇五-二九八
FAX 〇二五-二三〇五-二九二